

# 木知原の今昔!

35号: 6・3・22

地藏尊(其の二)

ホッコリ!  
谷汲山案内



顔は忿怒・心は慈悲!

不動明王は表情は厳しいが心は慈悲に満ちて優しい仏と言われている。

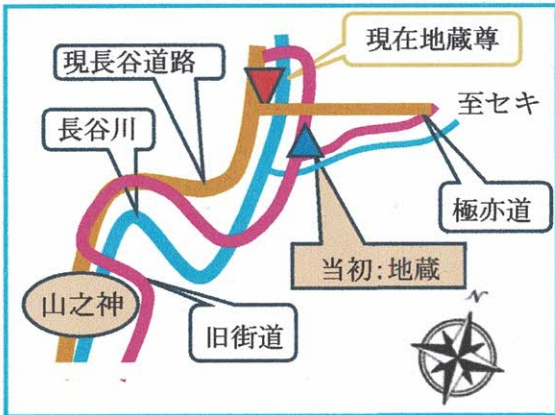
## 極亦口の地藏尊

は不動明王像である。

道案内に「**此方せき**」左は? 「**すぐ谷汲山**」とある。

極亦口とは、セキ・善光寺方面から谷汲を目指す巡礼が『**谷汲山はまだかな**』  
と思いながら厳しい極亦峠を越えてやっと一息つける場所である。

そこで出会えた地藏さんの『**谷汲山はもうすぐだよ**』との案内に疲れも吹き飛んだことでしょう。



長谷道路は現在長谷川の西側を通っているが、昔は谷川を何度も横断していた。(左図参照)

地藏尊は当初▲辺りと思われるが、新道(現道)が出来た折に▼の場所に移動されている。

「すぐ谷汲山」とは珍しい案内表記である。

・寄進者や時期は不明であるがきっと不動明王同様心優しく方であったのでしょう。

黒藤山  
(旧万代橋)  
不動明王



## 上岩崎の念佛碑

にも「たにぐみ三十丁」とある。



時期は分らないが左立の地藏尊と同じ石質で神海村の有志によって寄進されたものと思われる。

左端の地藏尊(大森村有志寄進)にも「**左谷汲山**」とある。

いずれも根尾越前道と渡船場への分岐点に祀られていた。「たにぐみ三十丁」は「すぐ谷汲山」と同様に旅人も『あとひと頑張りだね』とホッとしたことでしょう。



三十丁(丁・町)は長さ(面積)をあらわす単位。

昔は一丁の長さが地域によってまちまちであったのを豊臣秀吉の世代に全国一律に下記のように統一された。

【一丁は60間≒109.2m。一里は36丁≒3927m】

※江戸時代の一里塚はこれを基に立てられるようになった。

谷汲まで三十丁とは(109.2×30≒3276m)約3.3kmとなる。

たにぐみの「**小**」は爾(ジ・ニ)の変体かな。



地藏尊やその道案内から当時の地勢や暮らしを思いだることができる。

ふる里の歴史の面白さそこにあるのではないのでしょうか。(もう少し頑張ります)



木知原の地藏尊11体中の約半数近い5体が神海・川内・山県など他郷の有志により寄進されていることも木知原の歴史を知る上で興味深い事と思う。(その訳とは?)

地藏尊のよだれかけや花のお世話に感謝しながら撮っています。大切な木知原の史跡・宝物です。保存管理について自治会で一考する時期にきているように思いますが。